

持参者	カメラ名	製造会社	フィルム	国名	発売年
浅沼宣夫	スタート35	一光社	ボルト判(24×24mm)	日本	c1950
	スタート35J	一光社	ボルト判(24×24mm)	日本	1950
	スタート35R	一光社	ボルト判(24×24mm)	日本	1950
	スポーティーカーバイン Sportie Carbine	ブッチャー	127(4×6.5cm)	イギリス	1935
	シルバースーパー6	日本光機	120(6×6cm)	日本	1953
稲田裕之	ストラト35(トヨカ35S)	東郷堂	135(24×36mm)	日本	
岩崎敏彦	シグネット35(Signet 35)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1951
岡本貞雄	ズパーブ(Superb)後期型	フォクトレンダー	120(6×6cm)	ドイツ	1933
	スーパーセミコンタ531	ツァイス・イコン	120(6×4.5cm)	ドイツ	1950
金丸 斉	シグネット35(Signet 35)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1951
神藤弘充	サモカ35Ⅲ	三栄産業	135(24×36mm)	日本	1955
小滝日出彦	シグネット35(Signet 35)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1951
	ズパーブ(Superb)	フォクトレンダー	120(6×6cm)	ドイツ	1933
小林昭夫	ゾナー(Sonnar)	コンテッサ・ネットル	乾板(6.5×9cm)	ドイツ	c1920
	スティロフォト・スタンダード(Stylophot Standard)	セカム(Secam)	16mmフィルム(10×10mm)	フランス	1955
鈴木恭一	No.2Cボックス・スカウト	セネカ・カメラ	130(2.7/8×4.7/8in)	アメリカ	1920年代
	シグネット35(Signet 35)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1951
	シグネット40(Signet 40)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1956
	シグネット80(Signet 80)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1958
高島鎮雄	グレース・シックス	新日本工業	120(6×6cm)	日本	c1950
	パルヴォラ(グレース・シックスの基になったもの)	イハゲー	127(3×4cm)	ドイツ	1931
高橋強兵	サモカ35Ⅲ	三栄産業	135(24×36mm)	日本	1955
	セム・キム	S.E.M.	135(24×36mm)	フランス	1946
竹内 久彌	ゾネV(Sonne V)	ガット(Gatto Cav. Antonio)	135(24×36mm)	イタリア	1950
	ゾネC4(Sonne C4)	ガット(Gatto Cav. Antonio)	135(24×36mm)	イタリア	1953
	ゾネC4改	ガット(Gatto Cav. Antonio)	135(24×36mm)	イタリア	c1953
戸田晃史	サンダーソン・ジュニア	ホートン	乾板(4×5cm)	イギリス	1905
中村昭典	ズパーブ	フォクトレンダー	120(6×6cm)	ドイツ	1933
	シグネット35(Signet 35)	イーストマン・コダック	135(24×36mm)	アメリカ	1951
鍋田道雄	スーパーイコンタ530/2	ツァイス・イコン	120(6×9cm)	ドイツ	1934
	スーパーセミコンタ531	ツァイス・イコン	120(6×4.5cm)	ドイツ	1950
	フォカ・スボールⅡ	O.P.L.	135(24×36mm)	フランス	1961
長谷川幸也	セミレオタックスR	昭和光学精機	120(6×4.5cm)	日本	c1952
服部 豊	スリック	東亜光学	127(3×4cm)	日本	1934
	セミゲルト	東亜光学	120(6×4.5cm)	日本	1939
	サンフレックス V(5型)	不明	120(6×6cm)	日本	c1950
	スワン35	帝都光学	135(24×36mm)	日本	1955
林 輝昭	シンボフレックス	千葉精機	ボルト判(24×24mm)	日本	1953
	スタート35 モデル1	一光社	ボルト判(24×24mm)	日本	c1950
	スタート35 モデル2	一光社	ボルト判(24×24mm)	日本	c1950
	スタート35 K	一光社	ボルト判(24×36mm)	日本	c1955
	スタート35 KⅡ	一光社	ボルト判(24×36mm)	日本	c1958
藤岡俊一郎	スターライト(Starlite)	大和光機工業	135(24×36mm)	日本	c1960
藤森 惇	サモカ35Ⅲ	三栄産業	135(24×36mm)	日本	1955
山前邦臣	オレナックⅢ	S.E.M.	135(24×36mm)	フランス	1950
	セム・フラッシュ	S.E.M.	120(6×6cm)	フランス	1959
山下 浩	サリュートS(Salut C)	キエフ・アルセナール	120(6×6cm)	ソ連	1972

研究会報告 - その2 その他のカメラ 小林 昭夫

Sの付くメーカーは英仏、次いで米に多く、日独には大きなメーカーがありません。今回はこのような事情のせいでカメラの台数は少なかつたようです。以下目にとまったものを紹介します。なおカメラ紹介はインタビューも含めできるだけ所有者ご本人の説明を載せ、一部は(編)が代行して書いています。



スリック(服部 豊)→戦前に東亜光学から発売された沈胴式レンズのベスト半裁判カメラ。シルバゲルトと呼ばれるカメラの前身。

✓スティロフォト・スタンダード(小林昭夫)
フランスのセカムから発売された万年筆形のスパイカメラ。16mmフィルムを使って10×10mmの画面を18枚撮影できる。レンズは2枚玉の27mmF6.3付きの固定焦点。頭部を写真のように引き上げるとファインダーを覗くことができるようになり、かつフィルムの巻き上げとシャッターチャージが行なわれる。他にF3.5のレンズやシンクロ接点のついたデラックス型がある。





セミゲルト(服部 豊)

戦前に東亜光学から発売されたセミ判スプリングカメラ。東亜光学から発売されたカメラでは大変珍しい。



スワン35(服部 豊)

帝都光学から1955年に発売された35mmレンズシャッターカメラ。距離計連動機構やフィルムのレバー巻上げを採用して高級型なのだが、シャッターチャージは別に行なわなくてはならないという変わったカメラ。



←サンフレックスV

(服部 豊)

国産だがメーカー不明のローライコード型6×6判二眼レフ。本機について知っている会員は服部会員に連絡してください。

↓シンボルフレックス (林 輝昭)

ポルタ使用カメラで二眼レフタイプは本機以外ではローライ型が多い。といっても大半はファインダレフで、焦点調節は「ミュージックフレックスII a」だけである。シンボルフレックスはホビックスD1系の形で、フィルムは左右に巻き取る形式である。機能は固定焦点、レンズはF6.5(6.5、8、11の3段階調節)、シャッターはB、Iである。フィルム装填は底蓋からで、やりにくい。



スタート35K(林 輝昭)

一光社のポルタ判カメラ、スタートは24×24mmの四角判であったが、このK型から24×34mm判になった。その他では裏蓋開閉式になり、フィルム装填がやり易くなった。絞りは固定、シャッターはB、Iの切り替え式である。



スタート35K-II(林 輝昭)

スタートシリーズの最終型で、K型と違い金属のカバーをつけて立派な外観になった。絞りはS(サマー)小絞りとW(ウインター)大絞りの2段階。シャッターはB、I、の切り替え式で、ドイツ式のシンクロ接点がついている。



スターライト(藤岡俊一郎)

1960年代に大和光機工業が輸出用に出した小型の可愛いカメラ。PAXシリーズの簡易版で、レンズはLuminor Anastigmat 45mm F3.5で前玉回転目測距離合わせ、シャッターは、B、1/25、1/50、1/100、1/300のセルフコッキング、フィルム巻上げはレバー式、裏蓋は引き抜き。ファインダーは、透明ガラスで大変見易く、写りもなかなかしっかりしたものだ。



グレース・シックス (高島鎮雄)

豆カメラの珍品ポピーや6×6cm判スプリングカメラのポピーシックスなどを作った新日本工業(SNK)の1950年頃の製品。ポピーシックスの蛇腹を取り去って蓋をし、そこにダブルヘリコイドの沈鏡胴をつけたもの。このダブルヘリコイドはイハゲのバルヴォラのコピーで、脚までそっくりだ。ファインダーは逆ガリレオとブリリアント。レンズはエリナー・アナスティグマツ75mm、F3.5、シャッターはアルファT、B、1-1/200秒。対米輸出用だったようで、図鑑にも記載はない。



イハゲ・バルヴォラ3×4

(高島鎮雄) 参考

グレース・シックスのアイデアの基になったもの。イハゲが1931年から1939年まで生産した4.5×6cmと3×4cm判カメラで、レンズ、シャッターの組み合わせは各種ある。本機はOZJのピオター45mm、F2レンズとB、1-1/500秒のコンパー/ラピッド付き。



←セム・キム (高橋強兵)

本機は、フランスのサン テチエヌで1946年にポール・ロワイエが興したセム(S.E.M.)社発売の小形35mmレンズシャッターカメラである。オリジナルはコルニュ社のレイナクロスIIIで、ほとんど同じ外観をしている。ポール・ロワイエは、戦争中にコルニュ社がレイナのライセンス生産を委託したジャン・クロスにシャッターを製造、納入していた。ボディにレイナと同じ厚いアルミダイキャストが使われている頑丈なカメラである。レンズはアンジェニュー製のロス45mm/F2.9が使われている。



サリュート・エス(C) (山下 浩)

1957年にハッセルブラッド1600F、1000Fをコピーして生まれたサリュート(Salyut)の中期型。銘板にあるゼニス(Zenith)80は輸出用の名称。シャッターは最速1/1000秒のメタルフォーカルプレーンであり、スベック的にはハッセルブラッド1000Fを踏襲している。本機の外見はどちらかといえば後のハッセル500系列のコピーのように見える。しかしレンズやフィルムバックなどほとんどのパーツは、ハッセルとは互換性がなくただ「似ている」だけである。



セム・フラッシュ (山前邦臣)

世界で初めてのエレクトロフラッシュガンをボディに連結、固定させたフラッシュ撮影専用の二眼レフで、初めはレンタル専用(ロカション)として1954年に発売された。本機は1959年発売の4.5倍拡大ルーベ付きのもので、シャッターは1/50秒単速で距離により絞りが変化するフラッシュマチックである。撮影レンズはF3.5だが、ビューレンズはF2.8と明るい。フラッシュガンは改修してある。



スコーパ Scopa (山口満)

フランスのスカベック社が1951年にライセンス生産したもので、仕様は原型のRollexと同様。びっくり目玉と言われるファインダーが特徴。レンズ上方の箱の突起を押すと縦横切り替えの反射ファインダーが勢いよく現れる。厚めのアルミ板で作られたボディはフィルムゲートが曲線になっており、6×9cm判の単玉画像の欠点を補っている。シャッターはPとI、絞りは3段のみ。コダックやアンスコのボックスカメラとは一味違う。

(本機は2009年11月の研究会に持参したカメラです)



オレナックIII (山前邦臣)

距離計なしのレンズシャッター35ミリカメラで、フランス・セム社製。サン テチエヌから戦後にオーレック・シュール・ロワールに移転した後の1950年の製品で、オレックシャッター、アンジェニュー50mm/F2.9付き。写りは大変良い。



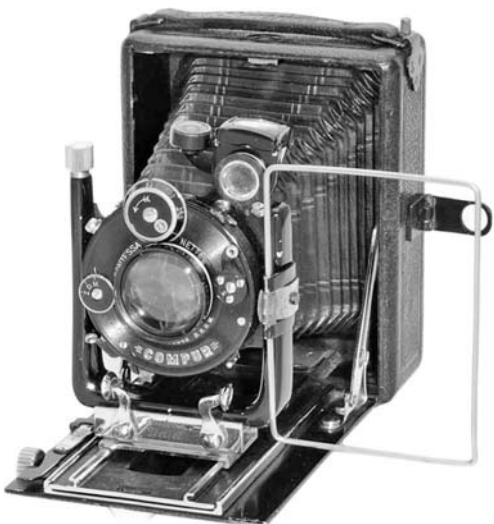
ゾンネ C4(改) (竹内久彌)

ゾンネVのレンジファインダーを二眼式とし、ビューファインダーを大型にして1953年に出されたのがC4型であるが、さらに35mmレンズ用のファインダーを中央において三つ窓にしたのがこのモデルである。どこにも記載がないので、(改)としておいた。1955年に会社が倒産したというので、1953年から55年の間に作られたものと考えられる。



ゾンネ(Sonne) V (竹内久彌)

第2次世界大戦直後にイタリアのヴェニス近郊で数種類製造されたライカコピーをヴェネシアン・ライカと呼ぶが、その内Antonio Gattoによって作られたのがこのゾンネである。裏蓋をヒンジ式にし、シャッターレリーズの周囲に速度目盛を置くところがライカとは異なる。最初のIV型に1~1/20秒の緩速シャッターを追加したこのV型は1950年に300~400台製造された。



←ゾンナー (小林昭夫)

コンテッサ・ネットルから1920年代初期に発売された水準器付き2段延ばしのベースボード型乾板カメラ。レンズボードのシフトは上下方向に可能だが、左右にはできない。ボディは木製。レンズのゾンナーアナスティグマートF4.5はシャープで良い写りをする。



シグネット80 (鈴木恭一)

イーストマン・コダックから1951年に発売されたシグネット35に始まるシグネットシリーズ最後のカメラ。ビハインド・レンズシャッターを持つレンズ交換式35mmカメラで、セレンの露出計が組み込まれている。交換レンズには35mm、50mm、90mmが用意されていた。